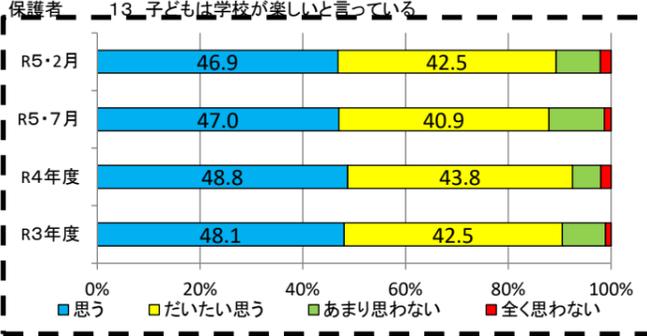


令和5年度 学校評価結果のまとめ

保護者の皆さんからいただいたアンケート結果です。

指標「学校が楽しい」について

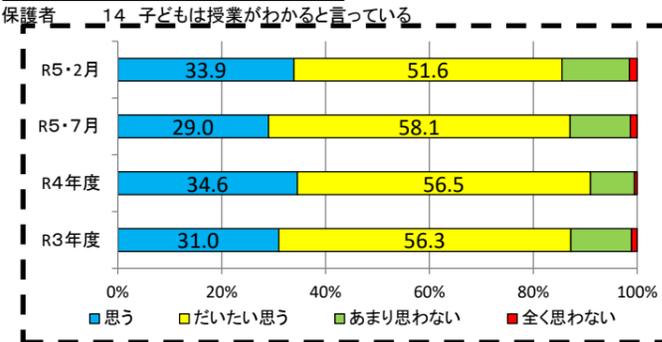


(保護者アンケート・児童アンケートから)

今年度7月に実施したものと、過去の年度末に実施したものをグラフに表しました。

確かな学力の育成について

指標「授業がわかる」について



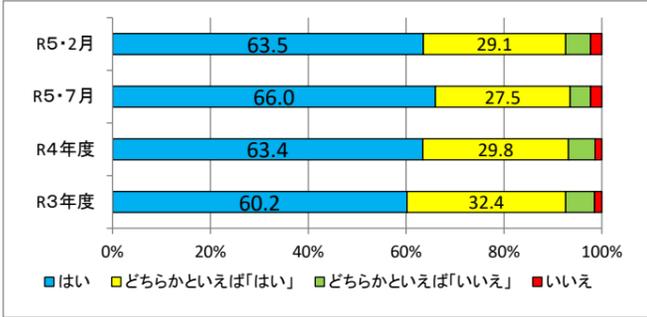
一宮市立丹陽南小学校

「学校は楽しい」について、児童・保護者ともに前回と大きな変化はなかった。しかし、「学校が楽しい」に「いいえ」と回答する児童が若干名いた。そのことに目を向け、一人一人が安心して、学校生活を送れるように児童の様子に気を配り、教育活動を進めていきたい。

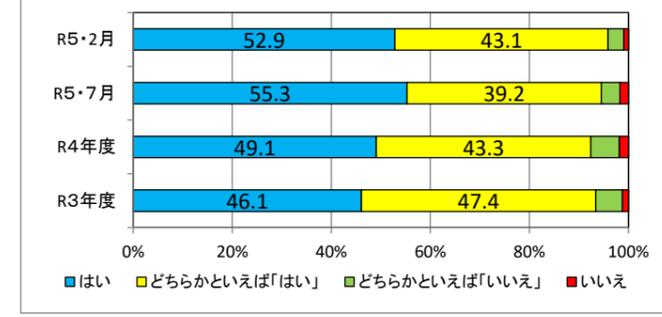
学校行事やペア集会についても、児童同士が直接的に関わりをもつことができる集合型の実施方法が増えてきた。特に児童会主催のペア遊びでは、遊びの内容を自分たちで考え、低学年の児童が楽しめる内容を実施している。こういった場が、楽しみの一つとなるようにしていきたい。

学校の授業については、「学校の授業が分かる」「国語の授業が分かる」という内容に対し、どちらも「はい」「どちらかといえば『はい』』と回答した児童の合計が、ここ数年で一番高いポイントになっている。すべての教科につながる言語の素地を養うため、国語の授業を核とし、考えを伝え合う場で自分の言葉で説明したり、思考を深めたりすることができるようになってきていると考えられる。

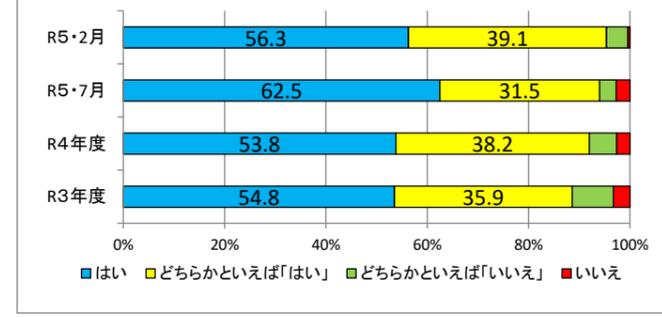
児童 1 学校は楽しい



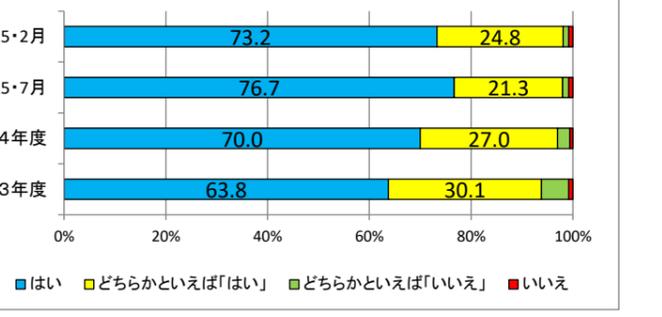
児童 2 学校の授業がわかる



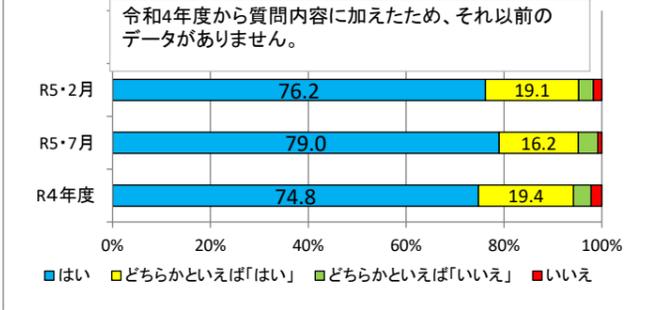
児童 15 国語の授業はわかる



児童 3 先生の話や友だちの発表を聞くことができる

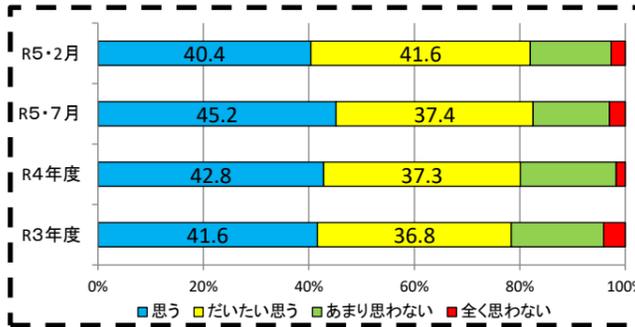


児童 4 学校行事やペア集会は楽しい

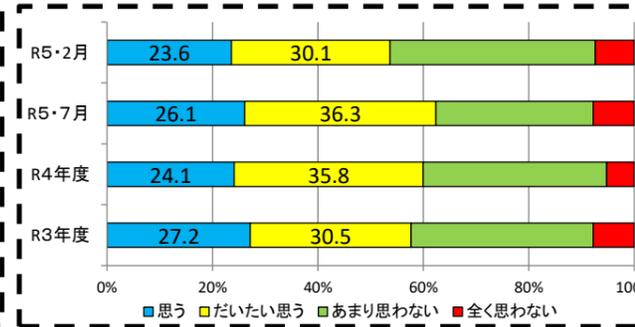


指標「音読に取り組んでいる」「漢字・計算チャレンジに取り組んでいる」について

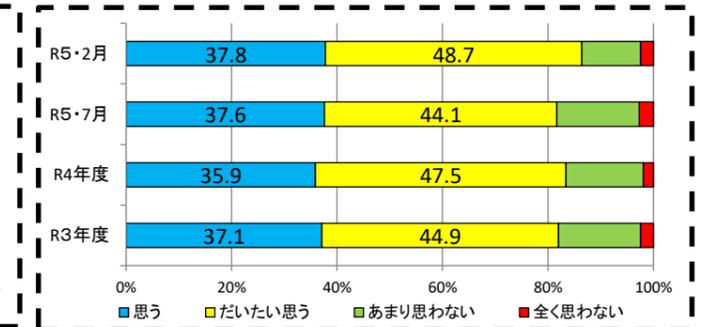
保護者 15 子どもは音読に取り組んでいる



保護者 16 子どもは本を読んでいる



保護者 23 子どもは漢字・計算チャレンジに取り組んでいる



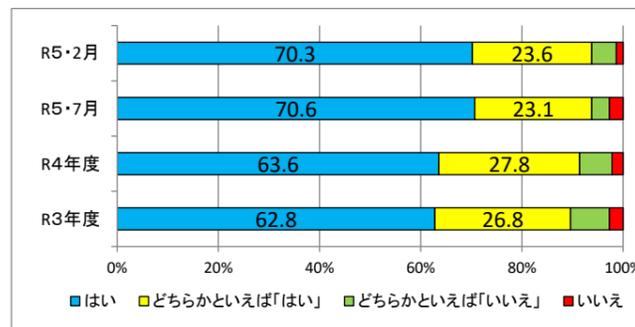
「音読に取り組んでいる」については、前回と大きな変化は見られない。音読や読書、漢字や計算は、すべての学習の基本となる大切なことである。児童がそれらに、自主的・自発的に取り組んでいるということは、自ずと学ぶ機会をもち、学力向上のための基礎を養っていると考えられる。

音読については、「読む」力の原点ともなる学習である。前回も記述したが、文章の内容を理解する、語彙を増やすといった音読の意義を再度確認していきたい。また、国語のみならず、他の教科でも音読により理解を深める機会を設けていきたい。

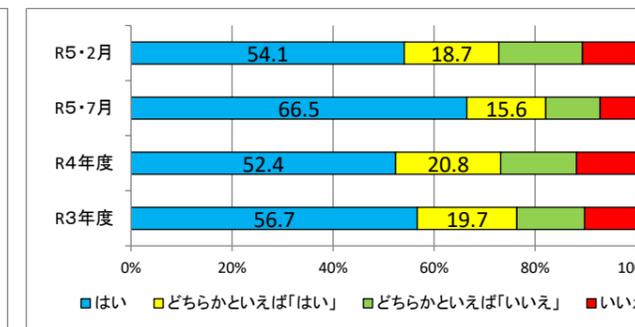
読書については、前回の7月のアンケートと比べ、本を読んでいる児童が大きく減っている。夏は、梅雨時期と熱中症指数上昇の影響により図書館に足を運ぶ回数も多く、読書をする時間が多かったようだが、今回は、進んで読書に親しむ人数が減った。しかし、国語や総合的な学習の授業時間で学習に関わる本を読む機会は多かったため、そこから読書の幅を広げていけることを期待したい。引き続き読書活動を推進し、図書館指導のさらなる充実を図り、児童が本に親しむことのできる環境を整えていきたい。

今後も家庭の協力を得ながら、日々の取り組み、家での読書、基礎基本の定着に向けた取り組みを伝えていきたい。

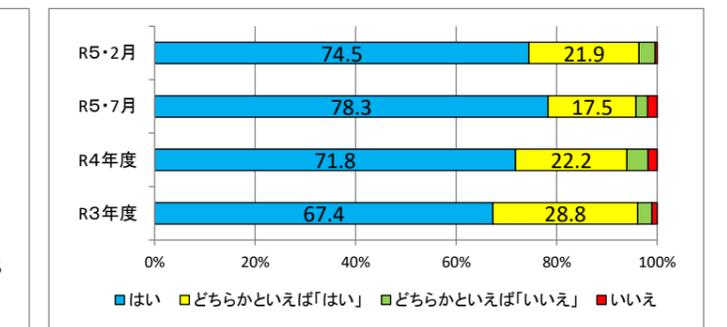
児童 17 音読に取り組んだ



児童 18 本を読んだ



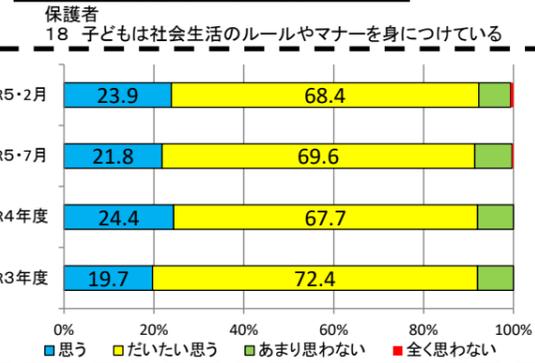
児童 16 漢字・計算チャレンジに取り組んだ



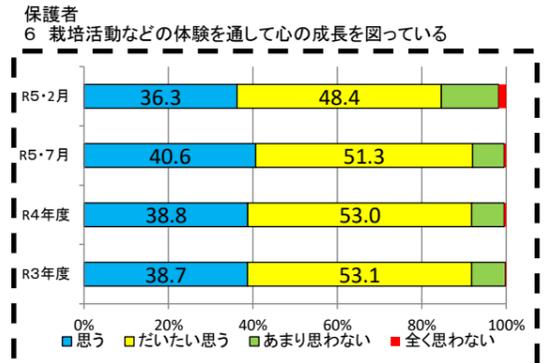
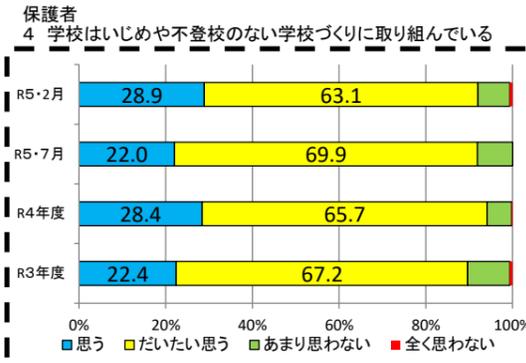
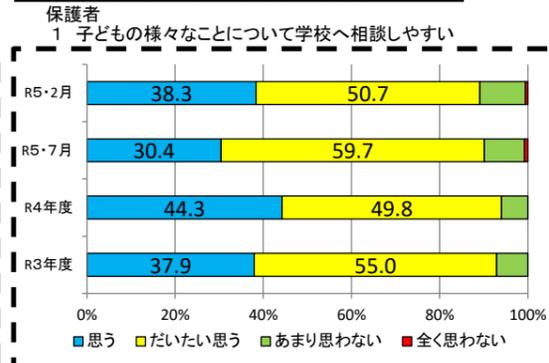
豊かな心の育成について
指標「あいさつをしている」について



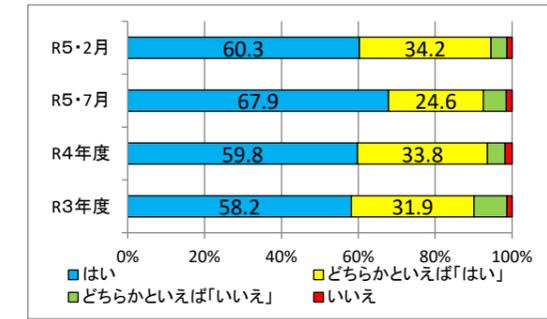
指標「きまりを守っている」について



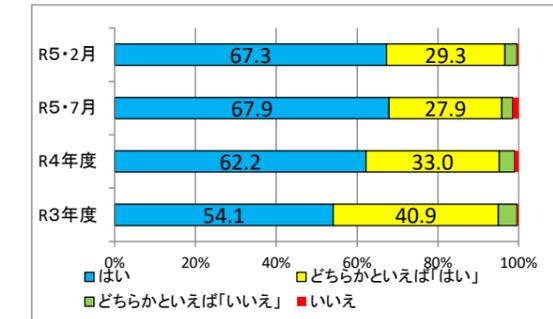
指標「いじめのない学校づくり」について



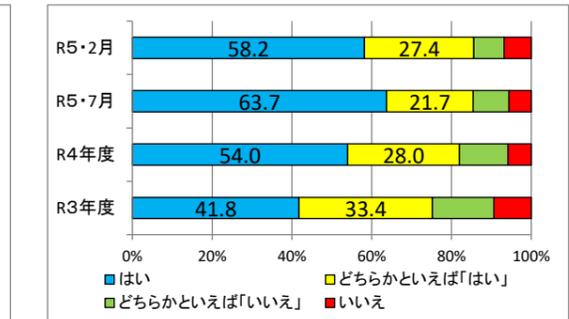
児童 10 家の人、先生や友達、地域の人にあいさつをしている



児童 11 学校のきまりを守っている



児童 12 悩みなどを相談できる先生がいる



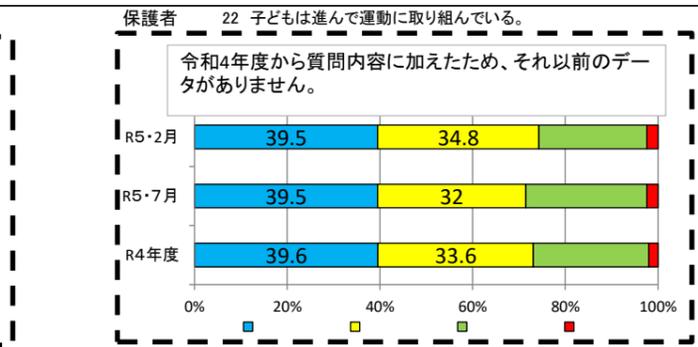
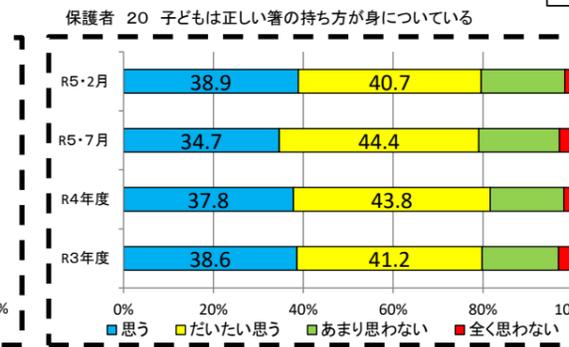
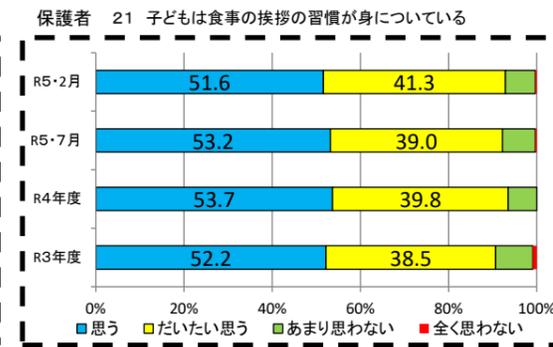
「あいさつをしている」について、保護者も児童も昨年度と大きな変化はなかった。今年度は、6年生が週3回、登校時にあいさつ運動を展開している。さらに3学期に入り、最高学年として、中学校の入学に向けて挨拶の意味を学年で考えることで、挨拶の質が上がってきている。高学年の姿を手本とし、挨拶が飛び交う学校を目指していきたい。今後も家庭や地域の協力を得ながら進めていきたい。

「きまりを守っている」については、昨年度とほぼ同様の結果であった。委員会活動の取り組みにより、校内でのルールについて意識する機会をもっている。引き続き、ルールやマナーは、みんなが気持ちよく過ごすためのものであることを理解させた上で指導をしていきたい。また、今後も、地域の中で児童を育てていくという考えのもと、様々な場面で協力を得ていきたい。

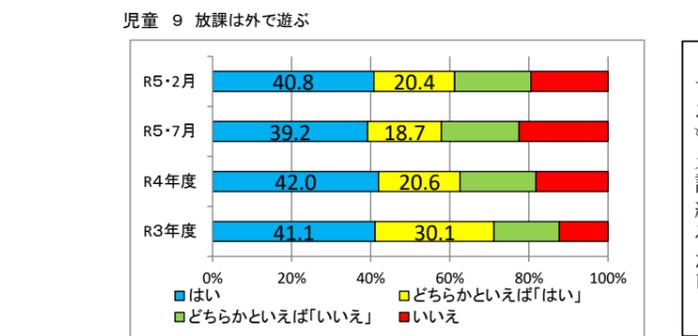
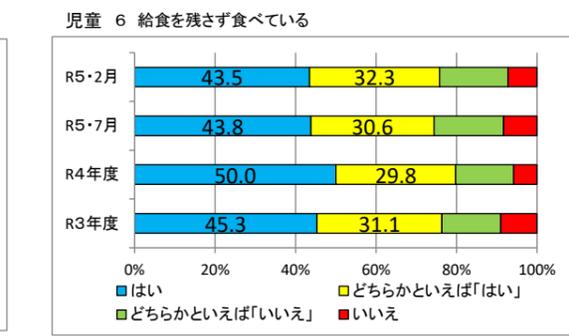
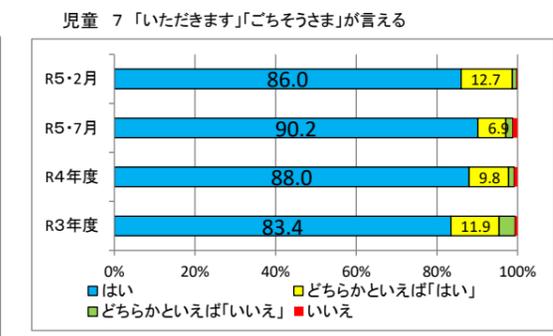
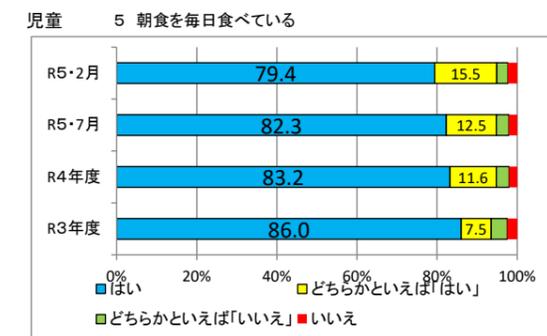
「いじめのない学校づくり」について、子どものことについて学校に相談しやすいという保護者の意識が7月と同様、昨年度に比べ、やや減少している。今年度も昨年度に引き続き、児童が悩みを話しやすい環境を目指し、話しやすい大人に相談していくことを促してきた。しかし、相談できる先生がいないと回答する児童も少なくはない。引き続き、話しやすい環境づくりに努めていきたい。また、学校生活全体で心の教育を進め、いじめのない学校づくりを目指していきたい。

栽培収穫活動について、季節にもよるが、各教科での栽培活動は引き続き行っていく。また、昨年度と同様、給食指導・栄養教諭による食育指導を通して、豊かな心の育成に努めていきたい。学年によっては、総合的な学習の時間において、栽培活動と食育への取り組みを取り入れていきたい。

健やかなからだの育成について
指標「朝食を食べている」などについて



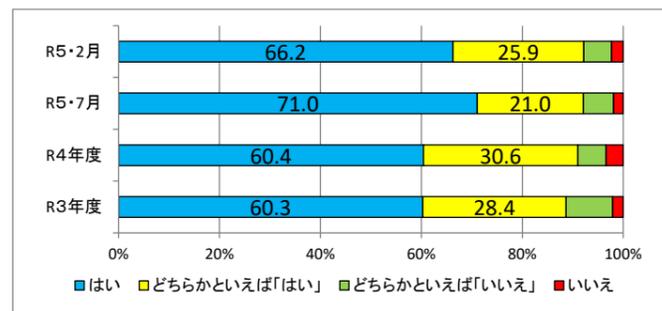
「朝食を食べている」の児童回答が毎回微減している。「食事の挨拶」「マナー」などについてと同様、今後も家庭の協力を得ながら、児童の健やかな体の育成を進めていきたい。



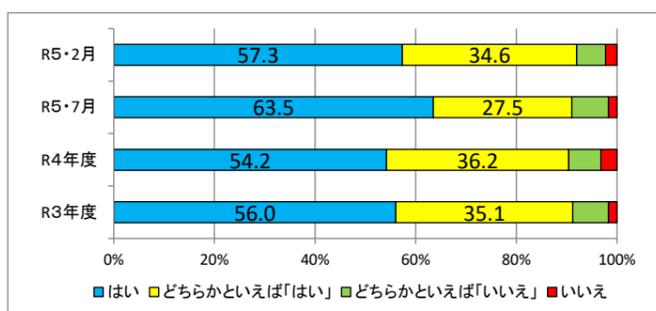
放課に外で遊んでいる児童については、7月に比べ、若干増えているが、遊んでいない児童も多い。3学期は、学級閉鎖や欠席があり、授業の補充等で放課の時間を利用して学習に取り組む児童も多かったと考えられる。今後も、健康安全に努めながら、適度な運動が行えるようにしていきたい。

未来に生きる力の育成について 指標「英語の授業は楽しいなどについて」

児童 19 英語の授業は楽しい



児童 9 節水や節電に心がけている

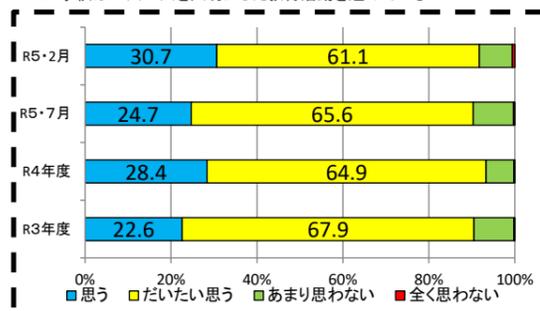


今年度もALTと担任で協力しながら進めてきた。5・6年生については、英語を書いたり、話したり、聞いたり中学校の英語の素地を養う活動が多い。英語での対話練習や発音練習など、積極的に行うことができるようになってきた。今後も楽しみながら学びに向かえるようにしていきたい。
「節水や節電に心がけている」では、「心がけている」「どちらかといえば心がけている」と回答した割合は、ほぼ昨年度と同様である。児童は、コロナ禍の水を出しっぱなしの時から脱し、自分で蛇口を閉めることは、当たり前の姿として戻ってきている。今後も意識できるように指導していきたい。また、節電についても、環境と結びつけながら、子どもたち自身が考えられるようにしていきたい。

信頼される学校づくりについて

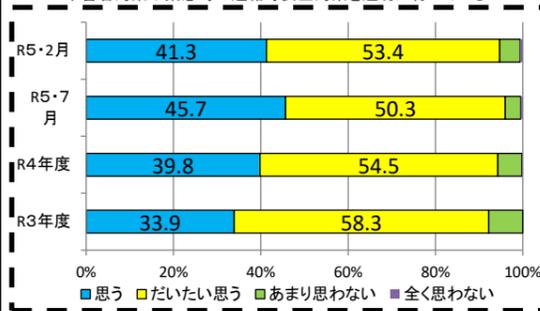
保護者 5 学校は一人一人を大切にされた教育活動を進めている

「学校は一人一人を大切にされた教育活動を進めている」について、回答の「思う」「だいたい思う」のポイントは大きく変化はなく、おおそこれまでと同様の評価をいただいた。しかし、「あまり思わない」「全く思わない」という回答もあるため、今後、さらなる個への配慮を行い、子どもたちの思いを大切にできるようにしていきたい。

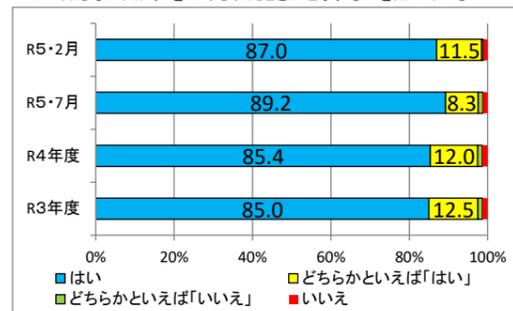


指標「安全対策を適切に行っている」「知らない人に声をかけられたときにどうするか知っている」などについて

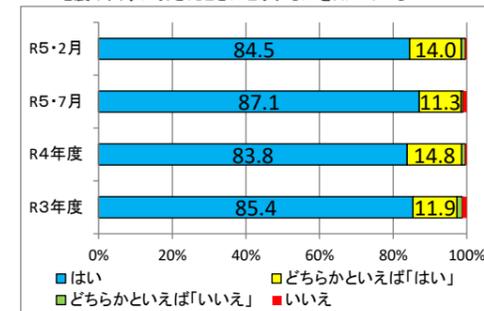
保護者 9 不審者対策や緊急時の連絡等安全対策を適切に行っている



児童 13 知らない人に声をかけられたときにどうするかを知っている



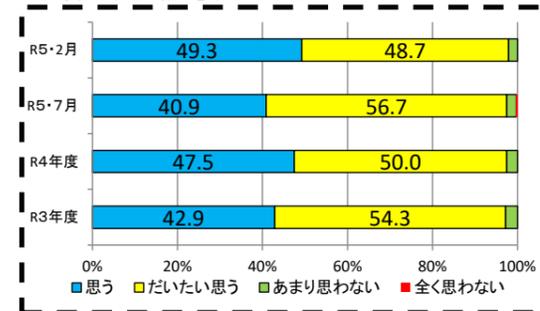
児童 14 地震や火事がおきたときにどうするかを知っている



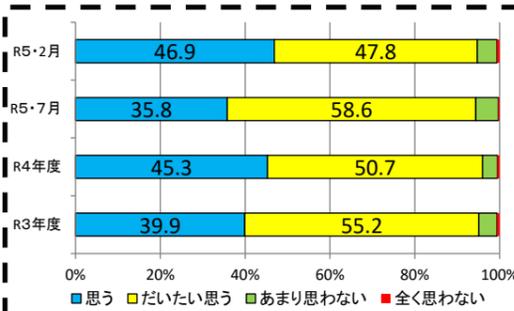
児童の安全が学校運営上第一と考える。学校では児童が自分で判断して避難できるように事前に様々な状況をシュミレートし、適切な対応が取れるようにしてきた。3学期の避難訓練では、1月の能登半島地震を彷彿とさせたためか低学年の児童は恐怖心を抱いている様子であった。今後もあらゆる場合を想定し、冷静に行動できるように意識を高めていきたい。
学校、家庭、地域で今後も協力し、児童の安全・防災意識を高めていきたい。また、職員の意識を高めるための研修も継続していきたい。

指標「子どもをよく理解している」などについて

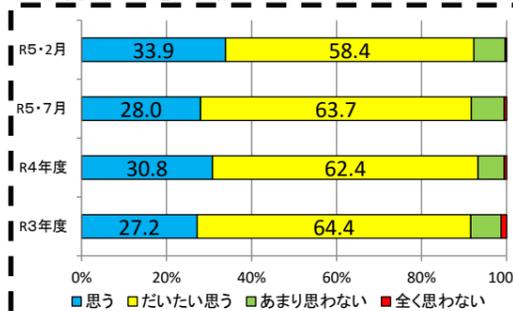
保護者 2 学校は活動の様子を分かりやすく伝えている



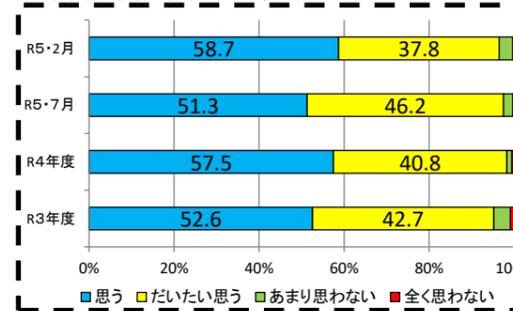
保護者 7 教職員は子どものよい点や努力したところを評価している



保護者 11 教職員は子どもをよく理解している



保護者 12 教職員は挨拶や言葉遣い、服装が適切である



「教職員は子どものよい点や努力したところを評価している」「子どもをよく理解している」については、昨年度と比べ、大きな変化はなかった。児童の姿を認め励ますとともに保護者の方の思いに耳を傾け、適切な教育活動を進めていきたい。
また、児童の活動の様子について、参観、学年通信や学校からのお便り、ホームページなどを通して、家庭・地域に情報を伝えていきたい。